婚前検査で HIV 感染が判明、伴侶に告げず停職処分に
医師の 80%が同様の経験；「告げないと他人を傷つけ告げると失職」

腾讯新闻 new.qq.com 2025-06-13 19:01 來源：广东深度健康人文内容创作者

患者の病状という秘密を守らねばならないという理由で医師が停職処分を受けるのは公平なのか？

患者が深刻な病気だと診断した場合、医師がそれを告げるべきか否か、これがひとつの難問だ。

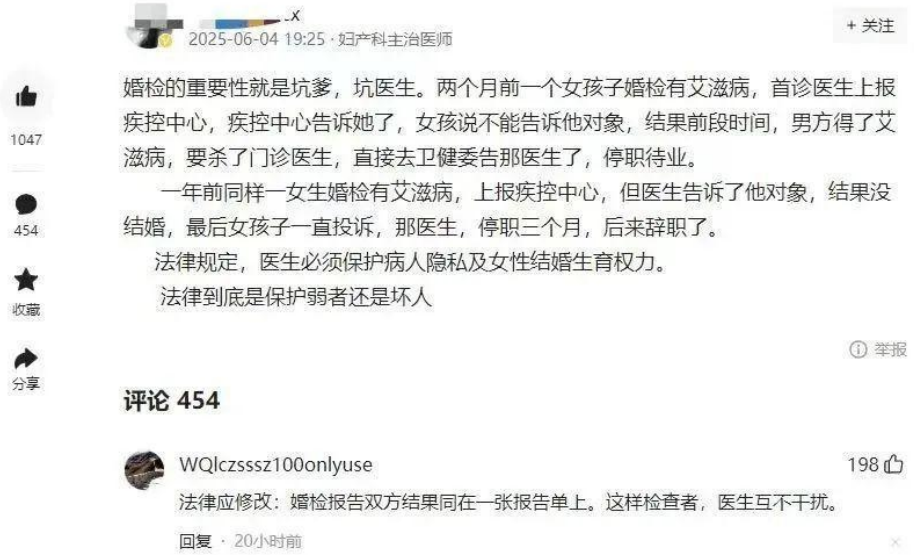
先日、湖北省のある病院の産婦人科医が、ソーシャルメディアに「婚前検査が医師に与える影響は、医師間の対立を生んでいる」と投稿した。ある女性が婚前検査で **HIV** 陽性であることが判明、彼女は医師に婚約者に内緒にするようにと要求し、医師は患者のプライバシーを尊重しつつ、規定に従って現地 **CDC** にのみ報告した。結局、男性が不幸にもエイズに感染してしまい、彼は怒って、結婚前検査を行った医師について衛健委に苦情を入れ、その医師は停職処分とされてしまった。

多くの人は、エイズは深刻な感染症なので伴侶の健康のために医師は双方にはっきりと伝えるべきだと考えている。

しかし、現実には、知らせたこと自体が間違いに。

「**1** 年前、女性が婚前検査で **HIV** 陽性と判明しました。医師はその結果を **CDC** に報告するとともに彼女のボーイフレンドにも伝えた結果、二人は結婚できませんでした。女性は医師に苦情を訴え続けました。訴えが認められた後、医師は **3** ヶ月間の停職処分を受け、辞職してしまったのです。」この医師は語る。

なぜなら、法律は医師に対し、患者のプライバシー保護と、女性が結婚して子供を持つ権利を守ることが義務付けられているからだ。



<<写真 1 ◎湖北省の医師 1 名が SNS プラットフォームで不満を吐露。/写真：ネットユーザーのスクリーンショット>>

現実には、医師が患者の配偶者に婚前検査の結果を積極的に伝えなければ、患者も配偶者に積極的に伝えることはまずない。不幸にしてその配偶者が感染した場合、病院で大騒ぎを起こし、医師を責めることがよくあるのだ：もし患者の婚前検査結果を相手側に伝えた場合、患者はプライバシーの漏洩を疑い、医師を提訴し裁判沙汰になることは間違いなく、医師もまた非難されることになる。

例え医師がどのような選択をしようと「スケープゴート」にされることがある。
これは決して稀なケースではなく、全国の健康診断に携わる医師たちが日々直面しているジレンマだ。

データによると、婚前検査にあたる医師の **80**%以上が、患者や家族から検査結果を隠蔽してほしいという要求されており、うち **65**%は **HIV** や梅毒などの感染性疾病や重度の精神疾患に関連していた。

2016 年、河南省永成市在住の王鑫（仮名）も同様な不幸に見舞われた。**Vista** ビューザワールドによると、王鑫と恋人の葉青（仮名）さんは結婚式の準備をしていたが、二人は民政局で婚姻届を提出した日に永城市婦幼保健院（宮本注：以下「母子保健病院」）で婚前検査を受けた。葉青さんにエイズ感染の疑いがあることが判明したが、この状況を病院も葉青自身も王鑫氏に伝えず、結果として、王鑫が結婚後日を経ずしてエイズに感染したことが判明したのだ。

「もし妻が教えてくれず、事情を知っている病院と **CDC** が私に注意を与えてくれなければ、感染するまでじっと待つしかなかったのでしょうか？」事件後、王欣さんは病院が妻の検診時にエイズの疑いがあることをなぜ伝えなかったのかと疑問を呈し、永成母子保健病院を訴えている。

<<写真 2 ◎男性は恋人がエイズと診断されたと告げられ、結婚後に自身が感染、病院と CDC を訴えた。/写真：Weibo のスクリー>ンショット>

広東省にある母子保健病院の陳医師は、医師としての苦しい胸の内を次のように語った：「私は以前に **24** 歳の **HIV** 感染男性の婚前検査を担当したことがありまして。早速この男性に電話を入れたところ、驚いたことに彼はとても落ち着いていて、既に **CDC** から伝えられていると言いました。今回は婚前検査の対応をしただけで、男性に対して私が女性に伝えねばならないよと婉曲的に提案したところ、彼は「これは自分のプライバシーだ、プライバシーを漏らすようなことをしたら、病院を訴えるだけでなく、あんたの評判も落ちるぞ！と言ってきたのです」

陳医師は、**CDC** が男性の婚約者に対して後から注意を促してくれることを願うしかなかった。

「我々は爆弾が仕掛けられるのを見ていましたが、『プライバシー』を理由に沈黙させられましたが、これは公衆衛生の防衛線を破壊する行為です。」山東省済南市の母子保健病院に勤務する李宏宇さん（仮名）は、**39deepbreath** にこう語る。「婚前検査の際に、私は女性側の家族に精神疾患歴や入院経験があるという女性にも出会いました。その女性は私に、精神疾患のことを男性に告げないでほしいと要求してきたのですが。その時も私は非常に当惑させられたものです。精神疾患は命に関わるものではありませんが、発作がおきると家族に大きな影響を与えることがあります。また別の時のことですが、ある男性患者が婚前健診で梅毒陽性反応が出たのですが、同僚が女性に内緒で婉曲にそのことを告げてしまい、最終的に、女性は裁判所に訴訟を起こし、男性が結婚前に重病を隠していたとして婚姻の無効を求めました。男性はそれを知り、責任を病院に転嫁したのです。数日間揉めた後、医師が男性に謝罪して賠償金を支払うことになりました。」

婚前検査結果の取り扱いは、実質上は個人のプライバシー権と配偶者の知る権利との間の駆け引き。民

法の規定では、婚姻関係にある当事者双方には貞操義務があり、重大な疾病を隠蔽することは詐欺行為に該当し、婚姻無効につながることがある。ところが、婚前検査で発見された感染症の結果が配偶者の知る権利の範疇に含まれるか否かは、法律では明確化されてはいない（下線は訳者）。医療シーンにおいては、患者のプライバシーは『権利侵害責任法』などの法規により保護されており、医師が許可を得ずに配偶者に告知した場合には、行政罰や民事賠償の対象となります。

この法律上の曖昧さにより、医師が制度の狭間に置かれた最大の被害者となっている。湖北省の某医院における産婦人科医が遭遇した経験は非常に典型的だ：パートナーに告知せずに **HIV** に感染した後に男は医師を殺すと脅した；パートナーに告知したところ、女性側からの苦情により停職処分となり辞職した。「告げれば責任を問われ、告げなければ告訴される」という職業の悪循環は、医師をして肉体的にも精神的にも疲弊させている。

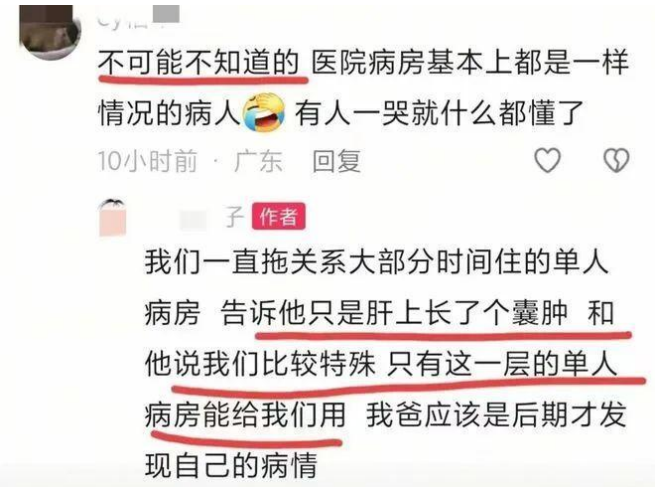
15 年間婚前検査に携わってきたある医師はこう認めた。「毎日仕事に行くのは綱渡りのようなものです。どの一歩が地雷につながるか分かりません。我々は道徳的な判断を下す立場にないけれど、他人のウソの代償をキャリアで支払わなければならないのです。」

「こんなケースは大変多く、少なからぬ家族から患者さんに病気の情報を隠してほしいと頼まれることも多いんですよ。私、どうすればいいの？医師って大変なんです！」**結婚検査における患者のプライバシー権の問題が激しい議論を巻き起こした後、臨床現場における患者の知る権利もまた、医師が直面するもう一つの問題となっています。**

家族が患者の病状を隠したり、医師に病状を隠すよう依頼したりすることは、特に腫瘍科ではよく見られる。『医師報』誌の調査では：医師の **70%**が日常業務の中で、家族が患者にその病状を隠すことに遭遇した経験があると回答している。

余姚市人民医院の緩和ケア病棟は、寧波市で初めてホスピスケアが提供された公立病院の病棟だ。看護師長の黄霞光は **39 Deep Breath** に対し、末期がん患者の約半数は家族により病状を伏せられているが、看護師にとって最大の課題は、日々の嘘をいかに続けるかであり、何を話すにせよ特別の注意が必要なのだと語った。

黄霞光看護師長は、重症患者の状態を隠すことが既に国内の少なからぬ医療関係者の間では「隠されたルール」になっていると述べた。**なぜ患者に隠さなければならないのだろうか？ある専門家がかつて、こんな格言を残している：「多くのがん患者は、がんで亡くなるのではなく、がんへの強度の恐怖とレがもたらす脅威により引き起こされる盲目的対応により亡くなるのだ。」**



<<写真 3 ◎あるネットユーザーはソーシャルメディアプラットフォーム上で、父親が前向きに癌治療に取り組めるように肝臓癌だということを隠していたと投稿。/写真：ネットユーザー提供>

患者にとって悪い知らせが招く悪い結果を防ぐため、家族が心配するのは当然であり、医師がその隠蔽に同意するのは合理的であると考えられる。民法第 **1219** 条には、患者に（病状や治療計画などを）説明することが不可能または不適切である場合、患者の親族に説明し、明確な同意を得なければならないと規定

されている。

だが、患者にとっては、**先に自分の病状を家族に伝えることは、患者のプライバシー権を侵害するだけでなく、インフォームドコンセントを受ける権利を制限したり、奪ったりすることにもなる。**

特に患者が行動力や認識力を有している場合、衝突を避けることは困難だ。患者は、病状に関する知識に基づき、適切な治療方法を選択する権利を有している。家族が代理人となる場合は、まず患者の意向に沿わないことがあり、第二に、家族が何らかの利益のために、患者の治療義務を回避したり、過度な治療を行ったりすること性があるのだ。

医師からすれば、**法律上では「患者に説明することが不可能または不適切」な場合についての規定はあるものの、具体的に何を患者に説明でき、何を言ってはいけないのかの範囲が定められていないのだ。**

こうしたグレーゾーンが存在することにより、もし病状を隠して不利な結果や医療紛争が生じた場合、医師は非常に消極的になる。

北京晩報はかつて、子宮頸がんの患者が子宮摘出手術を必要とした事例を報じたことがある。医師が、患者の夫の要請に従い、患者の病状を隠蔽していたが、夫の署名入りの同意を得た上で、子宮摘出手術をしたのに患者は退院後、病院を相手取って訴訟を起こしたというものだった。

裁判所は、患者の身体を処分する権利は患者自身に帰属するものであり、患者の夫と病院が署名した手術に関するインフォームド・コンセントは「無効な契約」であると判断、最終的に、病院が不法行為責任を負わねばならないとの判決を下したのだ。

中山大学がん予防・治療センターの陳功教授は、以下のような事例を紹介した。或る家族が医師に対して患者に病状を隠せと依頼して、患者が自分は重くないものだと誤解し、化学療法と分子標的療法の副作用を考慮したため、患者は最終的に化学療法を受けず、漢方治療のみを受けることにしてしまった――これは治療の機会を逃したに等しいことであるが―――家族が病状悪化まで患者に真実を伝えず、その結果、患者は自ら病院に治療を求めることを決定し、外来診療の場で家族に不満を伝えた。

患者のプライバシー権とインフォームド・コンセントの権利が均衡を失えば、現行法律では全責任を医師個人に押し付けることになる。我が国の法律では、「プライバシーが他人の生命や健康を危険にさらす場合の対処方法」や「医師が患者（またはその家族）に病状を正直に伝える際に、患者に不利益な結果が生じないようにする方法」に対する規定がない。医師たちは「障害の発生を座視する」か「自分のキャリアを賭ける」かの生死に関わる決断を迫られている。ある三級甲等医院の倫理委員会メンバーはこう述べた：「最前線の医師に個人の良心を盾に制度の欠陥と闘えということは、組織的な職務怠慢である！」

しかし、なぜ患者のプライバシー保護が必要なのか？を理解せねばならない。なぜ臨床の実践中には「保護性医療」が存在しているのか？その基本的な目的は、全て患者の信頼を獲得することにあり、これは患者を尊重することであり、診療の展開や患者のコンプライアンス改善にさらに役立つのだ。

このジレンマの解決には、医師を非道徳的に脅迫するのではなく、制度の再構築が必要であり、**少なからぬ医師が、「リスク通知免除制度」の導入を提案している。**

病院や社会福祉施設は、患者とその家族に医療リスクを告げねばならない。当然、どのような状況下でリスクの告知免除メカニズムを発動し、どのような場合に情報を開示するかは、すべて臨床医のスキルが試されることになるのだ。

あらゆる前提は、全て明確なオペレーション・ガイドラインと免除制度を合わせて構築することであり、それによって初めて医師が「話す」際に自信を持つことができるようになるのだ。

作者：王慧明
レイアウト：深深

https://news.qq.com/rain/a/20250613A08GCA00

A patient was suspended for not telling her partner after being found to have HIV during a premarital examination. 80% of doctors have this experience: If you don't tell others, it will hurt others, but if you tell others, you will lose your job.

Tencent News new.qq.com 2025-06-13 19:01 Source: Guangdong Deep Health Humanities Content Creator

---

Is it fair for a doctor to be suspended when the patient's condition is required to be kept confidential?

When a patient is diagnosed with a serious problem, whether the doctor should tell or not? This is a question.

Recently, the chief physician of the obstetrics and gynecology department of a hospital in Hubei Province posted on a social platform, saying that "the impact of premarital examinations on doctors is that it pits doctors." A woman was found to be HIV-positive during a premarital examination. She made a request to the doctor to keep it secret from her fiancé. The doctor, while respecting the patient's privacy, only reported the case to the local Centers for Disease Control and Prevention in accordance with regulations. In the end, the man unfortunately contracted AIDS. In anger, he complained to the Health Commission about the doctor who performed the premarital examination, which resulted in the doctor's suspension.

Many people think that AIDS is a serious infectious disease and that doctors should clearly inform both parties for the sake of their partner's health.

But the reality is that informing is also a mistake.

The doctor said, "A year ago, a girl was found to be HIV positive after a premarital examination. The doctor reported the result to the CDC and also informed her boyfriend. As a result, the two were unable to get married. The girl has been complaining about the doctor. After the complaint was successful, the doctor was suspended for three months and later resigned."

Since the law requires doctors to protect patient(s)' privacy and women's rights to get married and have children.

<<Picture 1 © A doctor from Hubei complained on social platforms. /Picture: Netizen's screenshot>>

In reality, if the doctor does not proactively inform the patient's spouse of the premarital examination results, the patient will hardly proactively inform his spouse. If his spouse is unfortunately infected, he often makes a scene in the hospital and blames the doctor; If the patient's premarital examination results are informed to the spouse, the patient will definitely complain to the doctor and appeal to the court because of the suspected disclosure of the patient's privacy, and the doctor will also be criticized.

No matter what the doctor chooses, he may become the "scapegoat".

This is not an accident, but a daily dilemma faced by medical examiners across the country. Data shows that more than 80% of premarital examination doctors have encountered requests from patients or family members to conceal the examination results, of which 65% involved infectious diseases such as HIV and syphilis and severe mental illness.

In 2016, Wang Xin (pseudonym), who lived in Yongcheng City, Henan Province, suffered the same misfortune. "According to Vista View the World", he and his girlfriend Ye Qing (pseudonym) were preparing for their wedding. On the day they registered their marriage at the Civil Affairs Bureau, they went to Yongcheng Maternal and Child Health Hospital for a premarital checkup. Ye Qing, was found to be suspected of having AIDS, but the hospital and Ye Qing herself did not inform the pseudonym, Wang Xin, of this situation. As a result, Wang Xin was found to be infected with AIDS shortly after the marriage.

"If my wife didn't tell me, would the hospital and the CDC, who know the situation, did not remind me, would I just have to wait to be infected?" After the incident, Wang Xin questioned why the hospital did not inform his wife of her suspected AIDS during the physical examination and sued Yongcheng Maternal and Child Health Hospital.

<<Picture 2 ◎ The man was told that his girlfriend was diagnosed with AIDS, and he was infected after marriage and sued the hospital and the CDC. / Picture: Screenshot from Weibo>>

Doctor Chen from a maternal and child health care hospital in Guangdong Province expressed the doctor's difficulties. "I once screened a 24-year-old male HIV-infected person during a premarital examination. I called the man immediately, but he was very calm and said that the CDC had already told him. This time, though I only responded to the pre-marital diagnosis, when I tactfully suggested that the man should tell the woman, he said that this was his privacy. Whoever dared to disclose his privacy would not only sue the hospital, but also make me look bad!"

Helplessly, Dr. Chen could only hope that the CDC would remind the man's fiancée during later processing.

"We watched the bomb being planted, but we were silenced because of 'privacy'. This is a destruction of the public health defense line." Li Hongyu (pseudonym), who works at a local maternal and child health care hospital in Jinan, Shandong, told 39 Deep Breath: "During the premarital examination, I also encountered a woman whose family had a history of mental illness and had been hospitalized. The woman asked me not to tell the man about my mental illness. I was also very embarrassed at that time, of course, mental illness is not life-threatening, episodes can really impact families. and, another time, a male patient tested positive for syphilis during a premarital examination. His colleague tactfully told the woman in private, in the end, the woman filed a lawsuit in court, requesting an annulment of the marriage on the grounds that the man had concealed a serious illness before marriage. When the man found out about this, he turned around and pushed the responsibility onto the hospital. After a few days of making a fuss, the matter was settled with the doctor paying compensation and apologizing."

The handling of premarital examination results is essentially a game between personal privacy and the spouse's right to know. According to the Civil Code, both parties in a marriage relationship have a fidelity obligation, and concealing a major disease may constitute fraud and result in the invalidity of the marriage. However, the law does not clearly state whether the results of infectious diseases found in premarital examinations fall within the scope of the spouse's right to know. In medical scenarios, patient privacy is protected by laws and regulations such as the Tort Liability Law. If a doctor informs his spouse without authorization, he will face administrative penalties or even civil compensation.

This legal ambiguity has caused doctors to be the biggest victims in the cracks of the system. The experience of an obstetrician and gynecologist in a Hubei hospital is very representative: If the doctor tells his partner, he will be complained by the woman and he will be suspended and resign. The vicious cycle of "being held accountable if informing, and being complained if not informing" makes doctors physically and mentally exhausted.

A premarital physician who has been in the profession for 15 years admitted: "Going to work every day is like walking on a tightrope. I don't know which step will lead to a landmine. We are not moral judges, but we are forced to pay for other people's deception with our careers."

"There are many such cases, and many family members ask you to conceal the disease information from the patient. What should I do? It's hard to be a doctor!" After the issue of patient privacy rights in premarital examinations sparked heated discussions, the patient's right to know in clinical practice is another difficult problem for doctors.

It is common for family members to conceal the patient's condition and ask doctors to conceal the patient's condition, especially in the oncology department. A survey by the Physician's Journal showed that 70% of doctors have encountered family members hiding the patient's condition in their daily work.

The palliative care ward of Yuyao People's Hospital is the first public hospital ward in Ningbo to provide hospice care. Huang Xiaguang, the chief nurse there, told 39deepbreath that about half of the terminal cancer patients here have their family members hiding their conditions. The nurses are most troubled by how to help them lie every day, and they have to be very careful about what they say.

Huang Xiaguang said that concealing the condition of seriously ill patients has become an "hidden rule" among many domestic medical colleagues. Why hide it from the patient? An expert once said a very classic saying: "Many cancer patients die not from tumors, but from the high level of fear of tumors and the blind response brought about by fear itself."

<<Picture 3 ◎ A netizen said on social platforms that he hid his father's liver cancer condition in order to make him actively face cancer treatment. / Picture: Provided by netizens >>

In order to prevent bad news from causing adverse consequences to the patient, it is understandable that the family members are worried, and it seems reasonable for the doctor to agree to conceal it. Article 1219 of the Civil Code also

mentions that if it is impossible or inappropriate to explain to the patient (condition and treatment plan, etc.), the patient's close relatives should be explained and their explicit consent should be obtained.

However, for patients, informing their family members first about the patient's condition not only violates the patient's right to privacy, but also means restricting or even depriving the patient of the patient's right to informed consent.

Especially when the patient still has the ability to act and recognize, it is difficult to avoid conflicts. Patients have the right to choose the appropriate treatment method based on their knowledge of the condition. First, having family members act as agents may not necessarily be in line with the patient's own wishes. Second, family members may evade or over-treat the patient's obligations for some interests.

For doctors, though the law has provisions for situations where "it is impossible or inappropriate to explain to patients", it does not specify the specific scope of what can be explained to patients and what cannot be said.

Due to the existence of these gray areas, if concealing the condition leads to adverse consequences and/or medical disputes, doctors are very passive.

Beijing Evening News once reported a case in which a patient with cervical cancer needed to have her uterus removed: The doctor followed the patient's husband's request and concealed the patient's condition from her. Though after obtaining the signed consent of the patient's husband, the hysterectomy was performed, after being discharged from the hospital, the patient sued the hospital for infringement.

The court held that the patient's right to dispose of her own body belonged to her and that the informed consent form for surgery signed by the patient's husband and the hospital was an "invalid contract", and the court finally ruled that the hospital was liable for tort.

Once the patient's right to privacy and the patient's right to informed consent are out of balance, the current regulations put all the responsibilities on individual doctors. Professor Chen Gong of the Cancer Prevention and Treatment Center of Sun Yat-sen University shared such a case. A family member asked the doctor to hide the patient's condition, causing the patient to mistakenly believe that her condition was not serious. In view of the adverse reactions caused by chemotherapy plus targeted therapy, the patient finally decided not to receive chemotherapy and only received traditional Chinese medicine treatment—— This is equivalent to missing an opportunity for treatment --- the family members did not tell the truth until the condition worsened. As a result, the patient went to the hospital in person for treatment and complained to his family member at the outpatient clinic.

Our country's laws do not mention "how to deal with the situation when privacy endangers the life and health of others" or "how to avoid adverse consequences for patients when doctors truthfully inform patients (or their families) of their condition." Doctors are forced to make a life-and-death decision between "watching the harm happen" and "gambling on their careers." A member of the ethics committee of a tertiary hospital said: "It is a systematic dereliction of duty to ask frontline doctors to use their personal conscience to fight against system defects!"

But we must understand why we need to protect patient privacy? Why does "protective medicine" exist in clinical practice? Its fundamental purpose is to gain the trust of patients, which is a respect for patients and is more conducive to the development of diagnosis and treatment and improving patient compliance.

Solving the dilemma requires institutional reconstruction, rather than morally blackmailing doctors, many doctors suggest that a "risk notification exemption mechanism" should be established. Hospitals or social organizations should inform patients and their families of medical risks. Of course, under what circumstances to activate the risk notification exemption mechanism and under what circumstances to inform are all tests of the skills of clinical doctors.

All the premises are based on clear operating guidelines and exemption mechanisms, which can make doctors more confident when "speaking".

Author: Wang Huiming
Layout: Shen Shen

:::::::::::::::::::::::::::::: 以下は中国語原文 ::::::::::::::::::::::::::::::

婚检发现患者艾滋未告知伴侣被停职，80%医生经历：不说害人，说了丢饭碗

腾讯新闻 new.qq.com 2025-06-13 19:01 來源：广东深度健康人文内容创作者

患者病情被要求保密，医生被停职公平吗？

当病人身体查出大问题，说还是不说，这是一个问题。

近日，湖北一医院的妇产科主治医生在社交平台发文，称“婚检给医生带来的影响就是坑医生”。一名女性在婚检时查出 HIV 阳性，她向医生提出一个要求，对未婚夫保密，医生在尊重患者隐私的前提下，按照规定仅上报了当地疾控中心。最后，男方不幸感染了艾滋病，愤怒之下，他将婚检的医生投诉到了卫健委，导致医生停职处理。

很多人认为，艾滋病算严重传染病，为了伴侣的健康医生应该明确告知双方。

但现实是，告知也是一种错。

这名医生表示，“一年前，同样是女生婚检后发现携带 HIV，医生将结果上报给疾控中心同时也告知了她对象，结果两人没能结婚，该女生一直投诉医生。投诉成功后，医生被停职三个月，后来辞职了。”

因为法律规定，医生必须保护病人隐私及女性结婚生育权利。

<<图片 1 ◎ 湖北的一位医生在社交平台上吐槽。/ 图：网友截图>>

在现实中，医生如果不将患者的婚检结果主动告知患者的另一半，患者几乎不会主动告知伴侣。如果其伴侣不幸染病，常常大闹医院，责怪医生；如果将患者的婚检结果告知另一半，又因为涉嫌泄露患者隐私，患者必定投诉医生，上诉法庭，医生同样遭受非议。

无论医生如何选择，都可能成为“背锅侠”。

这不是偶然事件，而是全国体检医生面临的日常困境。数据显示，超过 80%的婚检医生遭遇过患者或家属要求隐瞒检查结果的请求，其中涉及 HIV、梅毒等传染性疾病及重型精神疾病的占比高达 65%。

2016 年，生活在河南永城市的王鑫（化名）就遭遇了同样的不幸。据 Vista 看天下报道，他和女朋友叶青（化名）筹备婚事，两人在民政局办理婚姻登记当天，前往永城市妇幼保健院进行婚检。女方叶青被查出疑似患有艾滋病，但这一情况院方和叶青本人并未告知男方王鑫，结果王鑫在婚后不久被查出感染了艾滋病。

“是不是如果我爱人不说，医院、疾控中心这些知道情况的机构都不提醒我，然后我就只能等着被感染？”事发后，王鑫质疑院方为何在体检时不告知自己妻子疑似患艾滋病一事，并起诉了永城市妇幼保健院。

<<图片 2 ◎ 女友查出艾滋被隐瞒，男子婚后被感染将医院和疾控中心告上法庭。/ 图：微博截图>>

广东一妇幼保健院的陈医生对此说出了医生的苦衷，“我有一次在婚检中筛查一位 24 岁的男性 HIV 感染者，赶紧打电话告诉该男性，但没想到对方很冷静，说疾控早就已经告诉他了，这次就是做个婚检应付一下，当我委婉建议该男性应该告诉女方时，他说这是他的隐私，谁敢透露他的隐私，不但要告倒医院，还要让我好看！”

无奈下，陈医生只能寄希望于疾控中心能在稍后的处理中提醒这位男士的未婚妻。

“我们看着炸弹被埋下，却因‘隐私’被堵住了嘴，这是对公共卫生防线的破坏。”在山东济南当地妇幼保健院工作的李宏宇（化名）告诉 39 深呼吸，“在婚检时，我还遇到过女方家族有精神病史并曾住院治疗，女方要求我不能将精神疾病告知男方，当时我也很为难，虽然精神疾病不会危及生命，但发作起来真的会影响家庭。还有一次是一位男病人在婚检时测出了梅毒阳性，同事私下委婉告诉了女方，最后女方起诉到法院，以男方婚前隐瞒重大疾病为由请求撤销婚姻关系。而男方得知后转过来将责任推给了医院，闹了几天后以医生赔钱道歉了事。”

婚检结果的处理，实质上是个人隐私权与配偶知情权的博弈。根据《民法典》规定，婚姻关系中双方负有忠实义务，隐瞒重大疾病可能构成欺诈，导致婚姻无效。然而，法律并未明确婚检中发现的传染病结果是否属于配偶知情权的范畴。而在医疗场景中，患者隐私受到《侵权责任法》等法规保护，医生若擅自告知配偶，又面临行政处罚甚至民事赔偿。

这种法律上的模糊地带，导致医生群体在制度夹缝中沦为最大牺牲品。 湖北某医院妇产科医生的遭遇极具代表性：不告知伴侣，男方感染 HIV 后扬言杀医生；告知伴侣，被女方投诉到停职辞职。“告知被追责，不告知被投诉”的职业死循环，让医生身心俱疲。

一位从业 15 年的婚检医生坦言：“每天上班像走钢丝，不知道哪一步会踩雷。我们不是道德裁判，却被迫用职业生涯为别人的欺骗买单。”

“这样的事情非常多，还有不少家属要求你对患者隐瞒疾病信息，我该怎么办？医生难当啊！”**婚检中患者隐私权的问题引发热议后，在临床中患者的知情权也是医生遇到另一难题**。

家属对患者隐瞒病情，并要求医生一起瞒着患者，尤其在肿瘤科已如同家常便饭。《医师报》的一项调查显示：70%的医生在日常工作中曾遇到过家属对患者隐瞒病情的情况。

余姚市人民医院舒缓病房，是宁波首家提供临终关怀的公立医院病房。护士长黄霞光告诉 39 深呼吸，这里一半左右的癌症晚期患者都被家属瞒着病情，护士们最困扰的就是每天如何帮着圆谎，说什么话都要特别小心。

黄霞光说，对重病患者隐瞒病情，已是国内不少医疗同行的“潜规则”。**为什么要瞒着患者？有位专家说过一句很经典的话：“很多肿瘤患者不是死于肿瘤，而是死于对肿瘤的高度恐惧以及恐惧本身带来的盲目应对。”**

<<图片 3 ◎ 一网友在社交平台上说自己隐瞒父亲肝癌病情，为了让他积极面对癌症治疗。/ 图：网友提供>>

避免坏消息对病人造成不良后果，家属的担心可以理解，医生同意隐瞒似乎也合情合理。在《民法典》第 1219 条中也提到，不能或者不宜向患者说明的（病情和治疗方案等），应当向患者的近亲属说明，并取得其明确同意。

但对于患者而言，**先将患者病情告知家属，不仅侵犯了患者的隐私权，还意味着对患者知情同意权的限制甚至剥夺**。

尤其是当患者还具备行动认知能力时，就很难避免冲突。患者有权在知晓病情的基础上，自我选择合适的治疗方式。由家属充当代理人，首先未必与患者本人意愿符合，其次存在家属可能出于某种利益考虑，逃避或过度为患者治疗义务。

对于医生来说，**虽然法律中对“不能或者不宜向患者说明”的情况有了规定，但哪些能向患者说明，哪些不能说，却并未指出具体范围**。

由于这些模糊地带的存在，如果因为隐瞒病情产生不良后果，导致医患纠纷，医生方面是非常被动的。

北京晚报曾报道过这样一个案例，一位宫颈癌患者需要切除子宫，医生听从患者丈夫的请求对其隐瞒了病情，在获得患者丈夫签字同意后实施了子宫切除术。患者出院后，却起诉医院侵权。

法院审理认为，患者的身体处分权归其本人所有，患者丈夫与医院签署的手术知情同意书属于“无效合同”，最后判决医院承担侵权责任。

中山大学肿瘤防治中心的陈功教授分享过这样一个案例，一位家属要求医生瞒着患者病情，导致患者误以为自己病情并不严重，鉴于化疗加靶向治疗带来的不良反应，最终患者决定不再化疗，仅接受中医治疗—这

就相当于错过了一次治疗时机—直到病情加重，家属才告知其实情，结果患者亲自跑到医院就诊，还在门诊现场与家属互相抱怨。

一旦患者的隐私权和患者的知情同意权失衡时，现行法规将所有责任压给了医生个体。我国法律对“当隐私权危及他人生命健康时如何处理”、“医生将病情如实告知患者(或其家属)，如何避免对患者产生不利后果”只字未提。医生被迫在“坐视伤害发生”与“赌上职业生涯”间做生死抉择。一位三甲医院伦理委员会成员表示：“让一线医生用个人良知对抗制度缺陷，这是系统性失职！”

但我们必须要明白，为什么我们要保护患者的隐私？为什么在临床实践中存在“保护性医疗”？其根本目的都是为了获得患者的信任，是一种对患者的尊重，更有利诊疗的开展和提高患者依从性。

破解困局需要制度重构，而非道德绑架医生，**不少医生建议，应该建立“风险告知豁免机制”**。由医院或者社会机构对患者及其家属提示医学风险。当然在什么情况下启动风险告知豁免机制，在什么样的场合下告知，这都是考验临床医生的技术。

所有的前提都是建立在拥有明确的操作指引和豁免机制，才能让医生在“说话”时更有底气。

作者｜王慧明
排版｜深深

20250613G 婚前検査で HIV 感染が判明、伴侶に告げず停職処分に(腾訊新聞)